

器を呼びて、ケといひし物は、漢にいふ所の如く竹器也とは見えす、唯其字の盛食器也と見えしを取りて、讀みてケとなしたる也。註されば倭名鈔にも、筥をば木器類に載たりし也、飯を盛る器を呼びて、ケといひし義不詳、古俗食をいひて、ケといひけり、されば食の字亦讀みてケといふ舊説にアサケユフケなどいふは、朝飯夕飯也と云ひし是也。藻鹽食を盛る物なれば、其器をも又ケといひしにや、筥に盛る所なれば、食をも又ケといひしにや、詳なる事をば知らず、また倭名鈔に、標子は漢語抄にカレヒケといふ、俗に所謂破子は也と注せり、さらば破子の如きも、又ケといひける也。凡器をケと云ひしもの多かり、それが中、ケとのみ云ひしは、飯を盛る物を云ひけり、さき、

〔延喜式内七〕銀器

御飯筥一合、徑六寸、深一寸七分、料銀大二斤八兩、炭一石二斗、和炭二石、油三合五勺、長功日十六人、火工五人、

人、磨三人、中功日十九人、工十四人、短功日廿二人、工十六人、

伊勢初齋院裝束略中

臺盤二面、各四尺、銀飯筥一合、

〔延喜式主計〕凡左右京五畿内國調、一丁輪錢隨時増減、其畿内輪雜物者、略中 一丁、藪筥二合、徑六寸、深五寸、

板筥廿五合、徑五寸、深二尺八寸、圓筥七合、徑二寸、深二寸、

河内國略註調、略中 藪筥大十合、

攝津國略註調、略中 板筥六百三合、圓筥一百廿四合、大筥四百五十合、

〔三中口傳二乙〕一菓子間事

筥事

古ハ押色々薄様懸金銀帶一筋、上方綵色折敷ニ違色テ居之、總不及伏輪、只帶一筋許也、又折櫃同